

6-1 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1988年1月～6月）

Seismic Activity in the Northwestern Chubu Region (including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions), January-June, 1988

京都大学 防災研究所

上宝地殻変動観測所

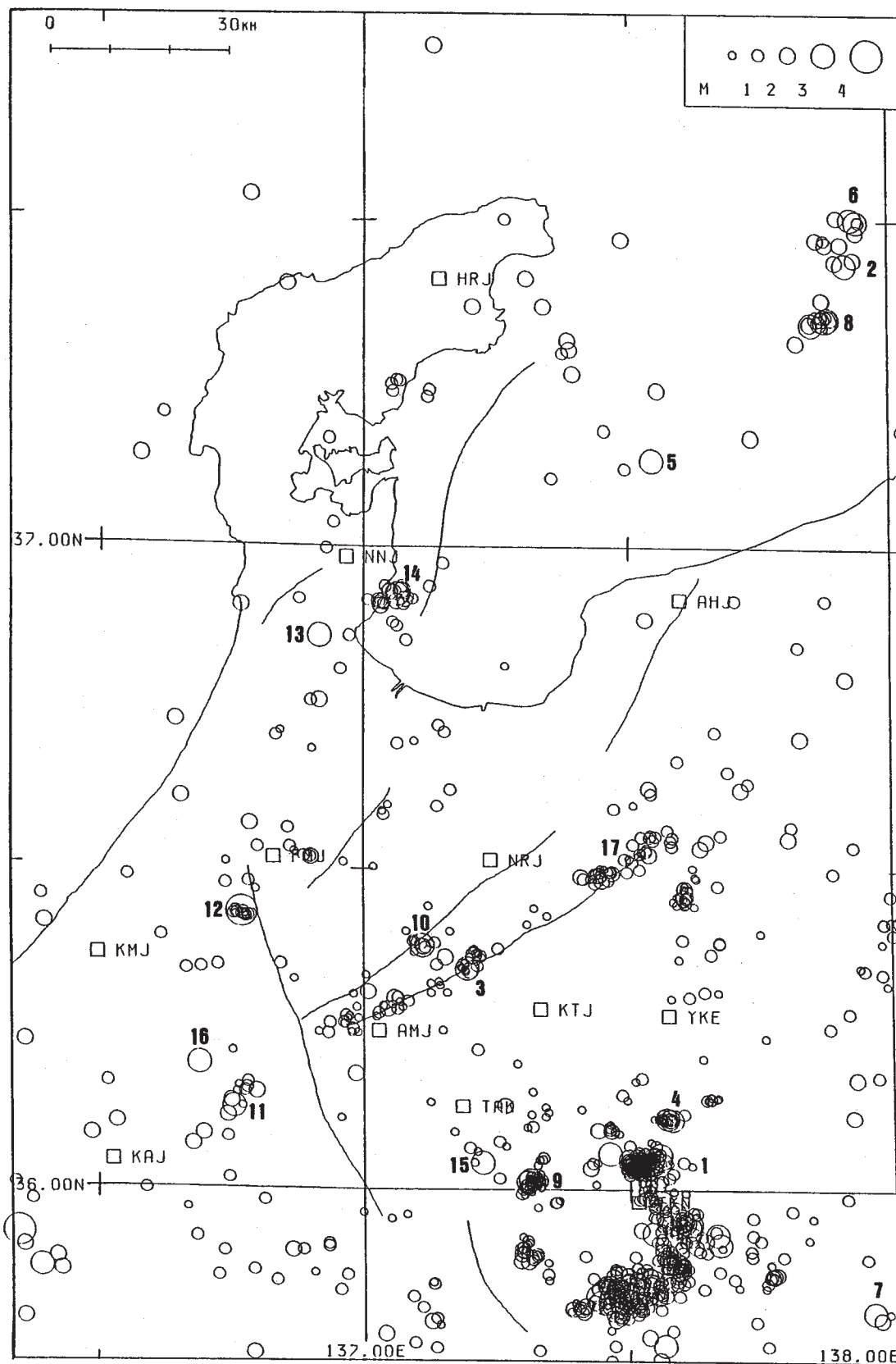
Kamitakara Crustal Movement Observatory
Disaster Prevention Research Institute
Kyoto University

第1図にこの地方における1988年1月より6月までの地震活動状況を示した。このうち主な活動は次の通りである（図中の番号参照）。(1)飛騨山脈乗鞍岳南西方では、1986年3月7日以来、群発地震活動が継続している^{1), 2), 3)}が、今年に入って1月11日M3.1, 2月24日M3.1, 同26日M3.4, 6月17日M3.3, 同25日M3.0を含む活動が依然続いている。(2)は富山湾東部糸魚川沖で1月17日に発生したM3.1の地震であるが、この付近では(6)3月14日M3.7, 同16日M3.0, (8)3月26日に2個のM3.0, 1個のM3.6の地震など、比較的活発な活動が見られる。(3)は1月22日跡津川断層中央部M3.0, (4)は1月25日乗鞍岳直下のM3.4の2個の地震を含む活動で、(1)の活動とは多少離れている。(5)は2月28日富山湾中部M3.8の地震で、(2), (6), (8)と同様富山トラフ東縁に近い。(9)1987年12月18日に始まった飛騨久々野東側の群発活動³⁾は12月中に一旦終息したが、本年4月2日及び6日にM3.5の2個の地震が発生した。(10)は4月6日牛首断層上のM3.0, (11)は4月13日M3.3の白山付近の地震である。(12)御母衣断層北西端西側では4月20日にM4.3の有感地震が発生したが、この場所では1986年6月6日以降群発地震が発生して^{1), 3)}以来、活動が活発化している。(13)は4月29日能登半島南部のM3.2, (14)は5月11日富山湾南西端の永見付近に発生したM3.5の2個の地震であり、1987年3月27日以来活発化した活動²⁾が継続している。(15)は5月29日飛騨久々野付近のM3.1, (16)は5月29日白山付近のM3.5の地震である。

第2図は(12)の1988年4月20日08:50の地震の震央(A)とメカニズム(B)を示す。この地震のメカニズムは飛騨地方北部に発生する大多数の地震の場合とほぼ同様の横ずれ断層型で、主圧力軸は東南東-西北西ないし東西方向に近いが、1986年の群発地震のメカニズム¹⁾とはやや異なっている。

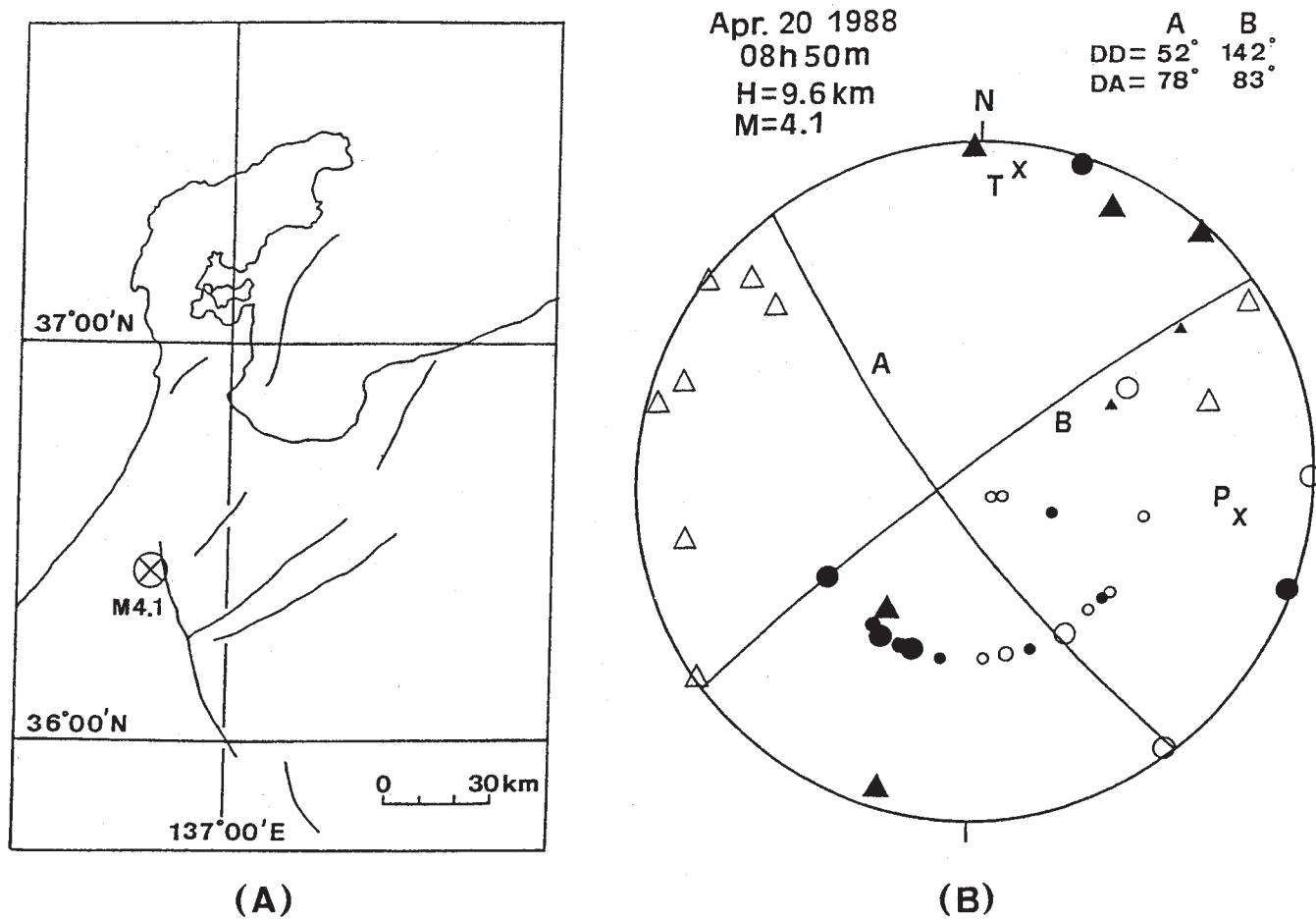
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1986年1月-6月），連絡会報 **37**（1987），305-310.
- 2) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1987年1月1日-11月11日），連絡会報 **39**（1988），291-295.
- 3) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所：中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動（1987年7月-12月），連絡会報 **40**（1988），342-346.



第1図 中部地方北西部（飛騨地方北部，富山湾及び能登半島周辺）の地震活動，1988年1月-6月

Fig. 1 Seismicity in the Northwestern Chubu Region including the Northern Hida, Toyama Bay and Noto Peninsula Regions, during the period January - June, 1988.



第2図 (A)1988年4月20日御母衣断層北西端付近の地震 (M4.3) の震央位置
(B)同上地震のメカニズム

Fig. 2 (A) Epicentral location of the April 20, 1988 earthquake.
(B) Fault-plane solution of the April 20, 1988 earthquake (M=4.3).